

KSKQ イマージュ

2006年9月

ただ歌いたいからといって歌いやしない
 声がいいからってわけでもない
 歌うわけは 多くのギターに感情と理由があるからさ
 このギターが 大地の心と鳩の翼をもってるからさ
 ピオレータ・パラが言ったように春の匂いをもった
 働き者のギターなんだ
 金持ち連中のギターとは
 それは似ても似つかぬもの
 多くの歌は星々に届くための足場
 真実を歌いながら死んでゆく者の血管の中で脈打つとき
 多くの歌は意味を持つ
 虚しいおべっかや外国で得る名声でもなく
 それは土の底までも
 届いてゆく革ムチの歌
 全てのものがそこへたどり着き
 全てのものがそこから始まる
 勇気と共にあつた歌は
 永久に新しい歌なんだ

ビクトル・ハラ「宣言」

第6回大阪野外演劇フェスティバル参加

ラ・パルティエダ - 出発 '06

2006年9月21日(木)
 22日(金) 19:00 開演
 23日(土)

大阪・扇町公園 特設NGR雷魚テント

「母を食う歌」

7年前、荒野をめざし、歩いてきた。当てもない、前人未到の荒れ地を、己の屍を拾い・引きずり、ある時はむさぼり食うようにして。一つずつの塚をふり返れば、見えるようで見えないように。しかしそんなことはどうでもよい。

風すさむ荒野が心地よい。人か己か、もう記憶もない程に、風に舞う砂塵に食った屍に、伝えた人影を垣間見る。

生きている。確かなものに息づく、今は亡き人々の魂が、穏やかに無言に伴走するが、すさむ風。

人は一人では生きては行けず、しかし荒野に一人のように、誰も見えず目の前を塞がれているようなもの。本当のものは近くて遠いようなもの。

砂粒のような人々の声と心を大切に、遠く近くに伴走者と共に、ピクトルの心に今行き着くところに。悲観など無縁な、希望、が、見えてくる。

(2度繰り返された9・11に思いを寄せて) 2006年8月25日 金満里



は、野。
 原は他国の手
 は貧しい暮
 している。し
 望にまみれ
 いながら
 地に根ざ
 して生きる
 。共に喜
 己の命を謳
 人びとの生
 不屈の魂を

作・演出 金満里

出演 井上朋子 北角和恵 木村年男
 金満里 小泉ゆうすけ 寺内たかし
 福森慶之介
 + 一般公募障害者エキストラ25名

音楽・演奏 佐伯雅啓 楠田名保子 伯山正孝
 大熊ワタル 山田巧
 八木啓代

LA PARTIDA

1970年 米ソ冷戦只中、世界で初めて自由選挙による社会主義政権がチリで誕生。アジェンデ大統領はこれまで外国企業の下にあった銅山などの天然資源を国有化し、また社会保障の拡大を進め、民衆の支持を得た。

1973年 9月11日、アメリカ・ニクソン政権の指示と工作により、チリ軍部クーデターが勃発、アジェンデ政権は崩壊した。

ビクトル・ハラ と ラ・パルティエダ

クーデターの時、5000人もの市民がスタジアムに逮捕され、拷問を受ける事件が起こった。その一人であった、アーティストのビクトル・ハラはギターをとり、歌で仲間を励まそうとした。軍人にギターを取り上げられると、ビクトルは手拍子で「ベンセレーモス」の合唱へと導いた。軍人に両腕を折られ、それでも尚、立ち上がって勇気と希望を歌い続けようとしたため、一人引き離され、虐殺された、という。今公演の作品タイトル「ラ・パルティエダ」は、ハラの美しい器楽曲 "La Partida" から名付けられた。

1989年 チリのピノチェト独裁軍事政権が終焉、民政移管された。
1991年 9.11のスタジアムは、ビクトル・ハラ・スタジアムと名付けられた。

2000年 「ラ・パルティエダ-出発」 広島初演
2001年 数年前より教育現場での日の丸・君が代の義務付けが社会問題化。
2003年 作品台本執筆に着手した日、広島の公立高校校長の自殺事件が起きた。

2003年 9月11日、アメリカ・ニューヨーク同時多発攻撃事件
2005年 自衛隊、イラクへ派兵
2006年 日本国憲法の改定論議が具体化

第6回大阪野外演劇フェスティバルへ劇団態変の参加が決定。上演作品に「ラ・パルティエダ-出発 '06」を選ぶ。同時に大挙して行進するシーンに出演するエキストラの募集活動スタート。

呼びかけ文は、

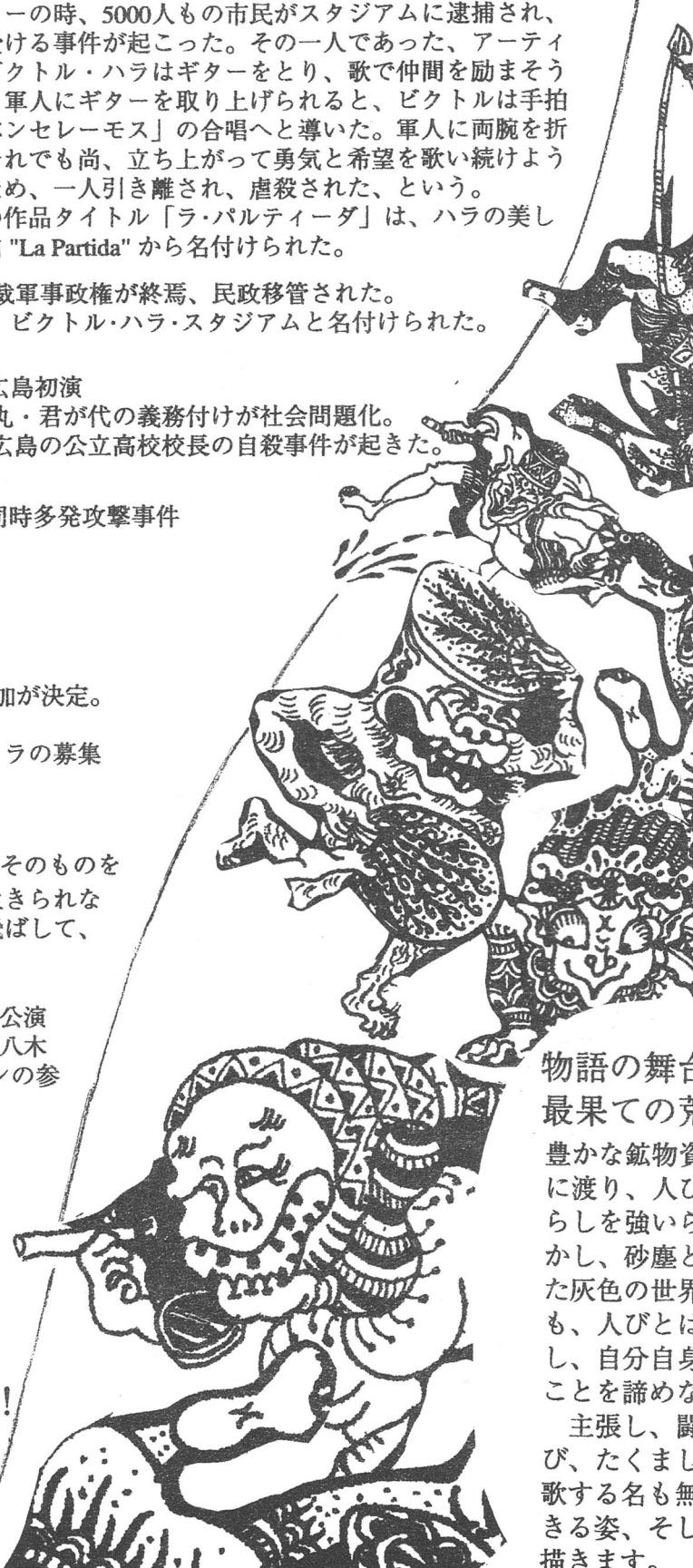
「出発しよう！役に立つか、立たないか、命そのものを誰かに分類される世の中なんて、誰一人、幸せに生きられない。だから、そんな分類はバカバカしい、と笑い飛ばして、踊り飛ばしてしまおう。」

初演で共演した広島のミュージシャンの佐伯さん、今公演参加も即快諾。ほかに、南米でも音楽活動されている八木さん始め、ビクトル・ハラに造詣の深いミュージシャンの参加が決定。

エキストラ出演呼びかけに対し、予想を越えて総勢25名もの人が次々に名乗りを上げた。さまざまな思いを込めて、自由に力強く身体は踊りだす！

2006年9月21～23日

扇町公園にて、いよいよ本番の幕が開く！



物語の舞台
 最果ての荒
 豊かな鉱物資
 に渡り、人び
 らしを強いら
 かし、砂塵と
 た灰色の世界
 も、人びとは
 し、自分自身
 ことを諦めな
 主張し、闘
 び、たくまし
 歌する名も無
 きる姿、そし
 描きます。

2006年8月

1991年9月3日第三種郵便物承認 毎日発行

公演日時

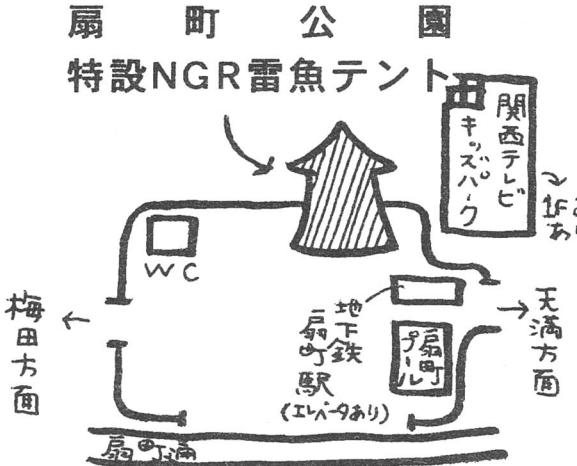
2006年9月21日 (木)
 22日 (金) 19:00 開演
 23日 (土)

LA PARTIDA

ラ・パルティータ - 出発 '06

・受付、当日券発売は開演1時間前から
 開場は開演30分前からです。

会場へのアクセス



扇町公園へ →→
 梅田都心より徒歩15分。
 最寄り駅は、地下鉄堺筋線扇町駅またはJR環状線天満駅です。
 雷魚テントへ →→
 扇町公園の北端。
 青と赤の関西テレビ社屋 (キッズパーク) のすぐ隣です。

雨天決行!
 客席は屋根つきです。
 暑さ・寒さの調整ができる服装で
 お越し下さい。

周辺地図は、
 ちらし裏面をご覧ください。

チケット発売中です！ご予約はお早めに

前売 (一般) ¥3000
 (学生/シルバー) ¥2500
 (障害者+介助者ペア) ¥5000

当日 一律 ¥3500

車椅子をご利用のお客様へ
 今回の会場の構造上、車イスでのご観覧は、4名様までに限らせていただいています。どうぞお早めにご予約下さいませ。
 また開演時刻を過ぎても車椅子のままでのご入場は、美術設営上できかねます。どうぞご了承のうえ、時間の余裕をもってお越しくださいませ。

金満里ソロ公演
 月下咆哮

2006年末 東京・新宿にて上演いたします

2006年12月26日 (火) ~30日 (土)
 毎夜 19:00開演

タイニイ・アリス (新宿2丁目-13-6-B1)

前売 (一般) ¥3000
 (障害者+介助者ペア) ¥5000
 当日 ¥3500

お問合せ 劇団態変06-6320-0344

"マレーシアの態変"
 ~世界の障害者も動きはじめた~

2005年よりマレーシアのクアラランプールで、金満里の指導による身体表現プロジェクトが始まった。現地の障害者を募集し、表現者に育て、現地の健常者を黒子を育て、稽古し、公演するという3年がかりの壮大な、そして画期的な取組みである。

障害者自立の概念がまだ定着していない地で、障害者にも健常者にも「障害者が身体表現をすること」のスピリットを、言語と慣習を超え、伝えるべく奮闘中。

これまで3回の訪問で、延べ100名以上の障害者に出会い、大半の人が舞台への意志を表明した。7月に11名の出演者が選ばれ、現地で毎週自主稽古が行われている。

3月の本番までに直面する、役者としての責任、役者と黒子の共同性の構築...、作品づくりを通して、マレーシアには新しい可能性の種が芽吹きつつある。

このプロジェクトの詳細は「態変マレーシア日記」
http://www.geocities.jp/gekidan_taihen/index.html

情報誌IMAJU vol.37 まもなく発売!

クロスオーバー談義：八木啓代&金満里

ご購入は、イマージュ06-6320-0344または態変HPまで

縄文ソウル 風の祭り

三上寛&沢田としき&金満里 即興パフォーマンス

2007年1月13日~14日 福島・いわき市他

お問合せ：0246-28-1086 縄文魂の会

「こんな世の中に誰がした!? 支援法もエエカゲンにせえよ!!」の障害者、当日飛び入りラストシーン参加来たわ